

艇庫に描かれた迫力ある赤い龍

ドラゴンボートチーム「津奈木海龍」の艇庫の扉に約1か月かけて、大平さんが赤い龍を描き上げました。代表の柳迫好則さん(大泊)から依頼を受けて制作。イメージを膨らませるため、海龍の練習や大会を見学した大平さん。「エネルギーがほとばしり、矢のように走り抜ける姿を表現したかった」と話します。龍が今にも動き出しそうな出来栄にメンバーたちは「この龍に負けないように私たちも気合いを入れて頑張りたい」と意気込んでいました。



梅雨の合間に天候を見ながら短期間に集中して描いたそう



6月18日(日)に壁画のお披露目会が開かれ、メンバーと一緒に記念撮影



アート ×

成果展「波をつなぐ」

4月22日(土)からつなぎ美術館で始まった成果展「波をつなぐ」。大平さんの3年間のアーティストとしての滞在は、芸術が手段ではなく目的としての価値を有することを明らかにする試みでもありました。町民と共に作り上げてきた成果展の様子をお届けします。

大平さんがデザインし、ごつごつした岩肌や突端にはためく国旗が描かれています。クッキーは環境や健康に配慮して無農薬の小麦粉や米粉などを使用。小麦粉を使った「チョコ」と「バター」、米粉を用いた「お茶」と「酒かす」の4種類。津奈木産の柑橘類が入ったパイやマドレーヌなどが入った「津奈木ナチュラルBOX」として美術館とあん・さんくで販売中です。同館2階の喫茶室では出張カフェが開かれ、展覧会をイメージしたスイーツをパティシエの長友美波さんが考案し、全メニュー完売するほどのにぎわいを見せました。次回の出店は成果展最終日の7月17日(月)です。



出張カフェでスイーツを盛り付けたときに使用した器は大平さん自らが陶芸教室で焼き上げた



重盤岩を描いたクッキーなどが入った「津奈木ナチュラルBOX」。7/17(月)までは美術館でも購入可

「津奈木のフード史シリーズ」は、マナガタ(マナガツオ)の煮付け、刺身、えび飯など郷土料理の絵が並びます。町内の高齢者施設の入所者にアンケートで思いに残る料理やエピソードをたずね、それらが描かれることで当時の町の生活の様子を垣間見ることが出来ます。町の四季や時間の変化を8点で現した《流転》、自宅から眺めた海と灯台の風景を描いた《日常》といった作品もあります。会場の奥にあるのは、町のシンボルである「重盤岩」を、和紙をつなぎ合わせて表現した作品(縦3・6尺、横5尺)。来場者にも参加してもらい、一つの作品を完成させました。「共同制作をする中で、町民と創作活動の楽しさを共有したかった。アートをより身近に感じてもらうきっかけになれば」と思いを語りました。

過ごした時間の全てを作品に落とし込みたかった。成果展「大平由香理 波をつなぐ」では、3年間町に暮らしながら描いた約30点を展示。《2020・7・8》《2020・7・12》と題した2点は、着任直後に起きた令和2年7月豪雨の被災状況を目の当たりにし、描いた作品です。



2



1

1_《重盤岩》は期間中に会場内で公開制作を実施。来場者によって制作されたパーツが作品の一部として生かされている。2_6月24日(土)に原田真紀さん(インディペンデントキュレーター)と対談。住民と共に描くことの意味を問い、地域におけるアートの役割などを話した

Interview / 津奈木町の洋菓子店「あん・さんく」が本展とコラボレート



食と農とアートが融合し、素材によりこだわって

今回のコラボカフェとクッキーの企画は大平さんと昨年何回も打ち合わせを重ねてきました。右写真は「『波をつなぐ』津奈木のオーガニック野菜や柑橘、周辺地域の果物を使ったスペシャルデザート」。使用したにんじんやとうもろこし、柑橘類は全て町の無農薬のもので、大平さんが作った器にのせました。クッキーやスイーツを食べながら会話が弾めばうれしいです。7月の出張カフェでは新しいメニューが登場しますのでぜひお越しください。*デザート…フランス語で「皿盛りのデザート」。

あん・さんく 長友美波さん



Interview / 作品《重盤岩》制作に参加して



西平 彩音さん(川内)

みんなで作った大作

大平さんの作品を見て、いろんな色を使ってきれいで感動しました。私は自然の絵を描くのが好きなので、美術館に行って一緒に作品を作りたいと思って参加しました。自分の作ったものが作品の一部になったときはうれしくてたくさんの人に見てもらいたいです。



自ら作ったパーツを《重盤岩》に貼り付ける来場者